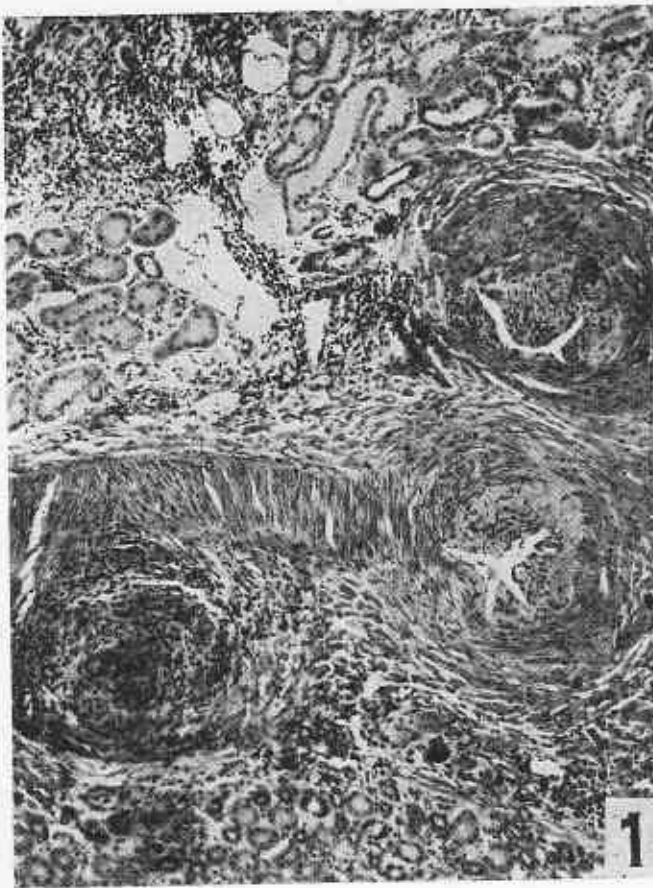


牛の結節性多発性動脈炎 (Polyarteritis nodosa).

東大伝研獣疫研究部，東京都食肉衛生研出題・第4回獣医病理研修会標本 No. 58



屠場材料：赤色和牛，♀，5才。生検時異常なく，剖検時剣突起部皮下織内に灰色，粟粒～米粒大の結節多数を認めた。その他，胸骨付着の筋肉内，腎周囲脂肪織内などにも小豆大に及ぶ硬い結節がみられたが，組織学的検査によつて，これらはすべて比較的長い経過を想像させる血栓形成性結節性動脈炎と判明した。肉眼的に変化の気づかれなかつた肝動脈，腎弓状動脈（写真1）にも著明な血管の病変がみられたが，他の主要臓器は採取できなかつた。

牛の多発性動脈炎はわが国では岡，望月，森田(1959)の詳細な一例報告があり，欧米では悪性カタル熱の場合にしばしばみられるとされているが，この例の臨床症

状は気づかれていない。血管病変の新旧の度合はかなりまちまちであつたが，一般に反応性線維化をとまつた比較的古い結節性の病変が多かつた。しかし，一方では細胞浸潤をとまつた閉塞性動脈炎の像も皮下織，臓器ともに認められた。

多発性動脈炎がアレルギー疾患であることを思わせる事実が少なからず知られている。今回の例でたまたま採取された浅頸リンパ節の洞内に著明な形質細胞反応がみられた（写真2）が，前述したように，このリンパ節付近の皮下織にはとくに著明な結節性の血管病変が多発していたことと考えあわせて興味のある所見である。